

2026年8月31日

2026年度 総会 結果概要

【日 時】 2026年8月31日(月) 13:30～14:43

【場 所】 オンライン会議 (ZOOMミーティング)

【参加者】 会 員： 中核機関、協働機関、参画機関及び特別会員 (別紙の60名)
来 賓： 文部科学省 研究振興局 参事官 (情報担当) 付 学術基盤整備室 山本室長
ほか (別紙の3名)

【概 要】

○ 開会挨拶

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 山下智志 所長より、本プロジェクトが目指す今後の方向性や、現在の事業評価等について、以下の挨拶があった。

- ・ 本コンソーシアムは、全国の大学等にデータサイエンス系学部・学科の整備が進められていることを背景に、それらの大学等に必要とされる大学統計教員の育成に主眼を置いて創設。その後、会員各位のご尽力のお陰で、データサイエンス系学部・学科の認知度も高まり、既存学部と比較しても遜色のないレベルに達しているものと考えられる。
- ・ さらに、データサイエンス系・学部・学科以外の学部においても、データサイエンス教育への認識が高まっていることもあり、データサイエンスの基盤となる大学統計教員不足は依然として解消していないという現状認識。このため、今暫くは、中核機関を中心とする統計学教員の育成の取組を継続することとしたもの。
- ・ 昨今、社会的にAI活用が重要視されているが、AI系学部・学科は設けられていない中、どこで学ばばよいかが大きな課題。個人的には、データサイエンス系学部・学科がその受け皿になるものと考えている。
- ・ 一方、データサイエンス系学部・学科の中において、AIの様々な局面、特にAIを作る技術を教えられる教員がどれだけいるのか、心もとない状況。これはデータサイエンス系学部・学科以外でも同様。
- ・ このため、AI系教員の育成もこれまでの教員育成の取組に加えて対応したい。まずは、データサイエンス系学部・学科においてAI教育・カリキュラムにも対応できる教員の育成を、会員の皆さまとの連携を強化して推進したいと考えている。引き続きのご協力をお願いしたい。

○ 来賓挨拶

文部科学省 研究振興局 参事官 (情報担当) 付 学術基盤整備室 山本 武史 室長より、以下の来賓挨拶があった。

- ・ 本コンソーシアムにおいては、令和3年度から7年度までの統計エキスパート人材育成プロジェクトにおいて、統計数理研究所を中核に多くの大学等との連携の下、統計エキスパート人材の育成に取り組んできていただいた。これまでに、参画機関は、設立時の21機関か

ら30機関に拡大するとともに、これまで計39名が研修プログラムに参加するなど、当初の目標を大幅に上回る成果を上げている。統計数理研究所及びコンソーシアム参画機関の皆さまのご尽力に、改めて敬意を表したい。

- ・ 文部科学省においては、今年度から新事業として「高度統計人材育成強化拠点形成事業」を開始し、統計数理研究所を中核機関として本年7月に本事業が開始された。本事業は、AIの基盤である「統計学」を体系的に教え、統計的思考・手法を駆使して研究・指導を行うことのできる高度統計人材の育成・輩出、また、その仕組みを自律的なエコシステムとして確立することを目的としたもの。
- ・ AI for Science時代を迎えた今、AIの基盤となる統計学の重要性は増しており、本コンソーシアムは、統計学コミュニティ内外とも深く連携し、本事業を強く進める上でも非常に重要な枠組みと認識。
- ・ 近年、AI for Scienceの潮流の中で、科学技術を取り巻く環境・研究活動の在り方は大きく変化。文部科学省においても、令和8年3月に「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を定めるとともに、同8月には「AI for Scienceを支える研究データの管理・利活用と流通の在り方について（審議のまとめ）」を公表。この中でも、AI for Science時代の研究データ基盤の在り方として、情報創出主体と利活用主体を仲介する科学～データサイエンス・AIを横断的に理解した人材の必要性が強くうたわれている。
- ・ また、AI for Science時代における人材育成については、令和8年7月に改定された「人工知能基本計画」の中でも、その重要性がうたわれており、令和9年度概算要求においても、文部科学省におけるAI人材育成・確保の一環として計上。「高度統計人材育成強化拠点形成事業」については、人工知能基本計画の中の「AIイノベーション人材」と「AI実装人材」の育成に資する取組として位置付けられている。今後は、先ほどの開会挨拶にもあった「AI研究開発人材」にも資する取組として、「AIイノベーション人材」や「AI実装人材」との架け橋となる人材育成という観点も必要になるかと考えている。
- ・ このようなAI人材については、AI時代における教育・研究を担うAX体制の構築が高等教育局の概算要求にも大きく計上されるなど、大学においても非常に重要であると考えている。
- ・ AI for Science時代において、今年度から開始する本事業がAI技術の急速な変化に対応していくためには、産業界の巻き込みや対外機関との積極的な連携を持続的に進めていくことが鍵になると考えており、本コンソーシアムの役割は、益々重要となるものと認識。今後は、引き続き、統計数理研究所を中核に、コンソーシアムの力を結集して、新たなAI時代を繋ぐ高度統計人材の育成に取り組むとともに、社会のニーズに沿った人材育成の取組が本事業終了後も発展的に継続できるよう、各機関の幅広いステークホルダーとの対話を推進されることを期待。
- ・ AI for Scienceの来年度概算要求について、科研費の倍増に近い増額などと並んで「AI for Scienceの革新による科学技術の革新」を計上。AI for Scienceの研究の幅広い推進、裾野を広げる意味での研究者に対するSPReAD等の拡充や、AI自体の研究開発、さらに、AI for Scienceを支える次世代インフラ、インフラを構築するための計算資源・データ基盤・実験基盤の高度化などを進め、それらが一つのパイプラインとなってAI for Science時代の研究環境としての大きな基盤を構築するため、従来に比して大きな概算要求となっている。
- ・ こういった中で、「AIを正確に理解する」「AIそのものを研究する」ことや、データ管理を含め様々な観点から、統計人材は、政府としても、大学の中においても重要となるものと考えており、本事業とも連携しながら各種施策を推進して参りたい。

○ **参画機関代表挨拶**

滋賀大学 竹村 彰通 学長より、参画機関を代表して以下の挨拶があった。

- ・ 新事業が無事にスタートしたことについて、中核機関の尽力、文部科学省の支援に感謝。前身事業が大きな成果を上げたことが今回のスタートに繋がったものと考えており、新事業においても人材育成の実施に引き続き尽力していきたい。本学としても、新事業における協働機関と位置付けられることから、引き続き本コンソーシアムに貢献して参りたい。
- ・ これまでのご挨拶にもあったように、近年、AI技術の進化が著しく、統計学の立場からも新しい技術への対応が求められている。一方で、AIの信頼性を確保する上では、統計学の重要性に変わりはないと考えている。
- ・ データサイエンス教育の中でも、数学、統計学が基礎となり、それを理解・習得した人材の育成が必要。時代の変化について行くことは大事であるが、流行を追い、基礎がおろそかになることは長期的な観点から避けるべき。十分に統計学の基礎を学べるような環境や教員の確保が重要。新事業においても、有用な統計学教員の育成・輩出を期待。

○ **議 事**

- ・ 統計数理研究所 川崎 能典 副所長の議事進行により、以下の議題について審議した結果、会員からの異議や修正意見等は示されなかった。また、参画機関の取組状況について情報共有を行った。
 1. 新たな統計エキスパート人材育成の取組とコンソーシアム規約の改正について
 2. 2025年度事業報告について
 3. 2026年度事業計画について
 4. 第1期統計学教員育成研修の募集・選考について
- ・ この審議結果を受けて、コンソーシアム規約を改正し、中核機関群を中心とした体制整備を進めるとともに、2026年度事業計画に沿って、第1期統計学教員育成研修とフォローアップ研修試行の実施、大学等拠点モデルの調査研究など、新たなコンソーシアムの活動を推進することとなった。

(以 上)

※文責：コンソーシアム事務局

別紙

2026 年度統計エキスパート人材育成コンソーシアム総会 参加者一覧

令和8年8月31日

【協働機関】

滋賀大学		学長	竹村 彰通
〃	大学院データサイエンス研究科	教授	佐藤 健一
〃	〃	教授	青木 敏
〃	〃	教授	笛田 薫
〃	〃	准教授	松島 裕康
〃	経済学部・データサイエンス学部共通事務部	副課長	橋本 良純
〃	〃		福田 督司

【参画機関・特別会員】

大阪大学	大学院医学系研究科	特任助教	安福 祐一
〃	〃	助教	橋渡 貴司
〃	産業技術研究所	助教	木村 輔
岡山大学	学術研究院 先鋭研究領域（資源植物）	教授	坂本 亘
〃	学務企画課		大下 洋一
九州大学	マス・フォア・インダストリ研究所	所長	梶原 健司
〃	〃	副所長	白井 朋之

九州大学	マス・フォア・インダストリ 研究所	教授	廣瀬 慧
京都大学	データ科学イノベーション教 育研究センター	特定講師	岡本 雅子
群馬大学	大学院食健康科学研究科	准教授	長井 万恵
慶應義塾大学	大学院健康マネジメント研究 科	教授	山本 渉
国立極地研究所	先端研究推進系 宙空圏研究 グループ	准教授	富川 喜弘
上智大学	大学院応用データサイエンス 学位プログラム事務局	チームリーダー	北村 好一
〃	〃		寄田 義和
中央大学	AI・データサイエンスセン ター	事務長	名達 誠一
データサイエンス共同 利用基盤施設	社会データ構造化センター	センター長	前田 忠彦
東京学芸大学	先端教育推進課	副課長	岩澤 大介
〃	〃	企画係長	森田 雄彦
東京大学	大学院経済学研究科	教授	大森 裕浩
東京理科大学	データサイエンスセンター	センター長	赤倉 貴子
〃	〃	主任	西田 一稀
同志社大学	文化情報学部・文化情報学研 究科事務局	事務長	長谷川 健介
〃	〃	庶務・教務係長	河合 良彦
長崎大学	情報データ科学部	教授	植木 優夫
長崎大学	情報データ科学部	助教	北村 史
名古屋大学	大学院医学部・医学系研究科 生物統計科学分野	准教授	橋本 大哉

〃	医学部・医学系研究科経営企画課		岩田 眞佐江
名古屋大学	大学院医学部・医学系研究科 生物統計科学分野		志賀 幾子
一橋大学	ソーシャル・データサイエンス研究科	特任教授	渡部 敏明
兵庫県立大学	大学院情報科学研究科	教授	笹嶋 宗彦
北海道大学	大学院保健科学研究院	准教授	杉森 博行
立正大学	データサイエンス学部	教授	西崎 文平
早稲田大学	データ科学センター	教授	野村 亮
大妻女子大学	データサイエンス学部	専任講師	田島 友祐

※ 茨城大学、京都女子大学、東京科学大学、名古屋市立大学及び広島大学については、学事等の関係によりご欠席。

【連携機関】

※ 統計質保証推進協会は、所用によりご欠席

【中核機関】

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所	所長	山下 智志
〃	〃	副所長	川崎 能典
〃	統計数理研究所 統計思考院	院長	日野 英逸
〃	統計数理研究所 大学統計教員育成センター	センター長	千野 雅人
〃	〃	統括部長	澤村 保則
〃	〃	研修部長・研修主幹・シニア教員・特任教授	水田 正弘

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所 成センター	大学統計教員育	教育システム開 発主幹・シニア 教員・特任教授	越智 義道
〃	〃		シニア教員・特 任教授	折笠 秀樹
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所 教員育成センター	大学統計	シニア教員・特 任教授	国友 直人
〃	〃		シニア教員・特 任教授	栗木 哲
〃	〃		シニア教員・特 任教授	佐藤 俊哉
〃	〃		シニア教員・特 任教授	清水 邦夫
〃	〃		シニア教員・特 任教授	神保 雅一
〃	〃		シニア教員・特 任教授	三輪 哲久
〃	〃		研修部・教授	赤穂 昭太郎
〃	〃		研修部	橋本 渉
〃	統計数理研究所		総務企画課副課 長	高木 博史
〃	〃		総務企画課総務 企画係長	茂木 諒平
〃	統計数理研究所 成センター統括部	大学統計教員育		山川 智子
【会員以外の参加者】				
文部科学省研究振興局参 事官（情報担当）付	学術基盤整備室		室長	山本 武史
〃	〃		係長	濱崎 拓郎
〃	〃			中野 智保